

(お知らせ)

令和3年12月22日
防 衛 省

次期戦闘機（F-X）に係る国際協力について

次期戦闘機に係る国際協力について、防衛省は、昨年12月18日に公表した「次期戦闘機の開発に係る国際協力の方向性について」において、米国のロッキード・マーチン社をインテグレーション支援の候補企業に選定するとともに、日米間の相互運用性（インターオペラビリティ）の確保のため、令和3年度から新たな事業を米国と協力して開始することとし、さらに、エンジン、搭載電子機器（アビオニクス）などのサブシステムについて、開発経費や技術リスクの低減のため、米国及び英国と引き続き協議を行い、協力の可能性を追求することとしました。

これを踏まえ、防衛省はロッキード・マーチン社と支援内容について協議を続けるとともに、本年8月から米空軍等との間で、FMSにより、将来のネットワークに係る共同検討を開始したところです。

上記の共同検討は、F-Xが部隊配備される令和17年頃以降の空対空戦闘の成否を決する重大な要素である日米間のインターオペラビリティを確保するため、米国装備品とのデータリンク接続等について日米共同で検討を行うものです。

また、防衛省は英国防省との間で、サブシステムレベルでの協力の焦点を当てつつ、F-X及びFCASに係る協力の深化の実現可能性について検討してきました。その上で、日英防衛当局は、今般、エンジンの共同実証事業を令和4年1月に開始することを確認しました。加えて、更なるサブシステムレベルでの協力の実現可能性も検討していきます。このため、日英防衛当局は、共通化の程度に係る共同分析を実施します。

日英防衛当局は、これらの実施に必要な当局間取決めについても署名を完了しました。この枠組みは、両国が共同で技術を追求することを可能とするものです。

(以上)